資料２－１

# ユースワークの視点を取り入れた取組の進捗状況（施策評価）について

こども青少年課

１　目的

ユースワークの視点を取り入れた居場所づくり事業や体験型事業、青少年自らが企画したイベント等を行うことで、中・高校生をはじめとした若者が様々な人と接し、様々な経験を積み、社会性や自己肯定感を育むこと。

２　令和４年度の取組の成果と課題

⑴ 成果

ア　次代の社会を担う子ども・若者を応援し、ユースワークを一層推進するため、子ども・若者応援基金（旧青少年健全育成基金）の活用方針を策定のうえ、基金条例の改正等を行い、基金の活用範囲を広げて、ユース世代の活動や子ども・若者育成支援団体の活動、先駆的・試行的取組を行う団体の活動を支援する新たな補助制度「子ども・若者応援基金活用事業補助金」の創設に取り組みました。

イ　ユース交流センター（指定管理者：尼崎ユースコンソーシアム）において、ユースワークの視点を取り入れた居場所づくり事業や体験型事業、若者自らが企画したイベントやユースカウンシル事業（23 人参加）のほか、公共施設等を活用しながら地域の若者を対象にしたサテライト事業（72 回 3,420 人参加）を実施し、中高生をはじめとした若者が様々な人と接し、経験を積みながら社会性や自己肯定感を育むことができるよう取り組みました。

⑵ 課題

ア　ユース世代や子ども・若者支援団体への事業周知を図るとともに、各団体が適切に事業遂行できるよう支援する必要があります。また、補助事業の審査にあたってユース世代の意見をしっかりと審査に反映させるための仕組みづくりが必要です。

イ　ユース交流センターのサテライト事業では、地域によってイベント回数や内容に隔たりがあるため、各地域振興センターと連携しながら、居住地域に関わらず市内の若者がユース交流センターの取組に関連した様々な事業に参加できるよう全市展開を図り、各地域においてユースワークが展開されていく必要があります。

３　令和５年度の取組

⑴ 基金活用事業の選定にあたっては、審査を行う付属機関（青少年協議会）に若者を加え、その意見を聴くとともに、補助事業の実施にあたっても必要な側面的支援を行います。

⑵ ユース交流センターのサテライト事業実施にあたっては、各地域振興センターと緊密に情報交換や意見交換を行うとともに、各地域においてユースワークが展開されるようユースワーカーの養成に取り組みます。

以　上

資料２

あまぽーとアマブラリ
尼崎市立ユース交流センター

# 第１回尼崎市ユースワーク推進部会
# ～令和４年度の取り組み及び令和５年度の運営について～

やりたいをやろう。

尼崎市立ユース交流センターは、青少年一人ひとりが
成長と自己実現ができる居場所を目指しています。

尼崎ユースコンソーシアム
Amagasaki Youth Consortium.

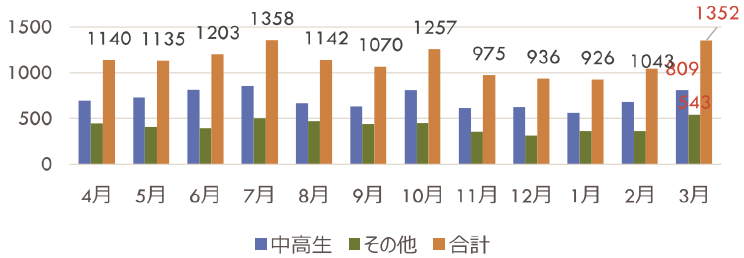
## フリースペース利用者数

※オープンラウンジ・学習室は実人数を記載。図書コーナー・フリースペースは定時観測（12時/16時/20時）で記載。

施設全体

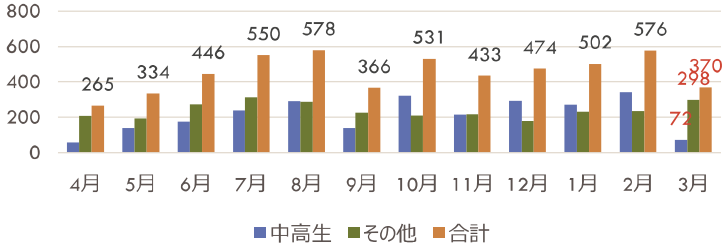
あまぽーと

オープンラウンジ



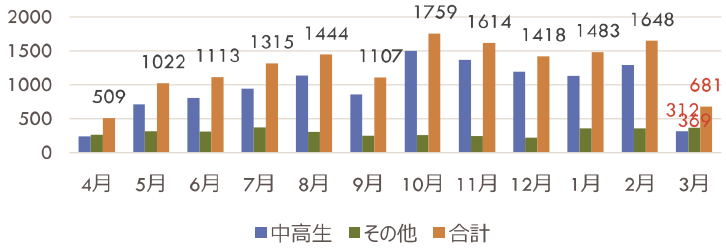

アマブラリ

図書コーナー・フリースペース




アマブラリ

学習室

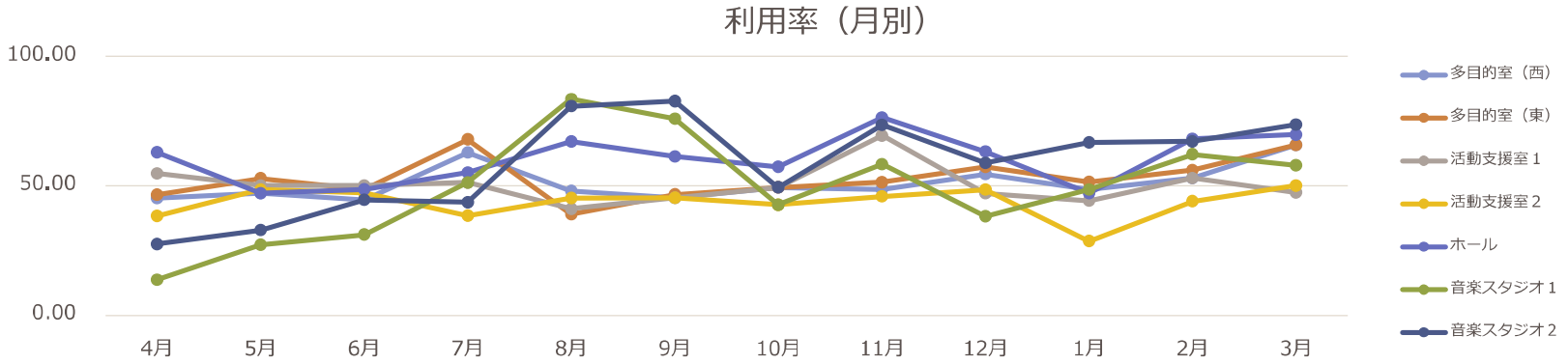



◆今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休館等はなく、運営することができた。そのため、来館者数については、年間3万人を突破し、前年度比125%増となった。また時期によって増減があるため、次年度に向けて、SNSや口コミ等の広報を更に強化していきたいと考える。

## 貸し室利用者数

※青少年稼働率とは、青少年が利用可能な時間帯（平日の夜間/土日祝の終日）の貸し部屋の利用率を表す。

| | 多目的室（西） | 多目的室（東） | 活動支援室１ | 活動支援室２ | ホール | 音楽スタジオ１ | 音楽スタジオ２ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用コマ数 | 445コマ | 470コマ | 437コマ | 379コマ | 525コマ | 429コマ | 508コマ | 3,193コマ |
| 利用者数 | 5,097人 | 5,129人 | 4,968人 | 4,210人 | 14,098人 | 1,143人 | 1,405人 | 36,050人 |
| 利用率 | 51.15% | 54.02% | 50.23% | 43.56% | 60.34% | 49.31% | 58.39% | 52.43% |
| 青少年利用率 | 55.65% | 55.86% | 56.49% | 50.21% | 84.73% | 52.93% | 60.88% | 59.53% |




◆すべての部屋で利用率が3～20ポイント近く上昇している。特に音楽スタジオがコーラス等の規制が解除されたこともあり、大幅に上昇している。利用団体数が昨年度よりも減っており、リピート率が多くなったことが上昇の要因であると考える。今後は、周知等に力を入れ、より利用される施設を目指していきたい。

## 実施イベント

様々なニーズに応えていくために、オープンラウンジにゲームコーナーやPCタブレットの設置、電子ドラムなどの音楽スペースの設置を行った。また、様々なイベントを実施し、スタッフや中高生世代同士での交流を図れるよう工夫を行った。意見回収箱の設置ややりたいことリストなどを行い、利用者の声を拾い上げる工夫をした。

| 実施月 | 主なイベント | イベント数 | 参加人数 | 実施月 | 主なイベント | イベント数 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | ニューゲーム<br>New Sports | 10本 | 69人 | 10月 | モルック大会<br>How to make | 10本 | 91人 |
| 5月 | イントロドン！<br>けん玉大会 | 14本 | 320人 | 11月 | リアル麻雀<br>バスケットボール | 10本 | 79人 |
| 6月 | みんなでパズル<br>レクリエーション | 12本 | 98人 | 12月 | ムーブックチェア<br>クリスマス | 11本 | 137人 |
| 7月 | マリカー大会<br>中高生bar | 11本 | 99人 | 1月 | フットサル<br>サバゲー | 10本 | 76人 |
| 8月 | ピアメイク<br>車いすアメフト | 13本 | 104人 | 2月 | 百人一首<br>バレンタイン | 10本 | 86人 |
| 9月 | トークラウンジ<br>デンマーク講座 | 11本 | 119人 | 3月 | ドッヂボール<br>お花見 | 13本 | 125人 |
| 上半期<br>合計 | - | **71本** | **809人** | 下半期<br>合計 | - | **64本** | **594人** |

◆利用者数が増えてきており、利用者から色々な意見を聴きながらイベントを実施した。そのため、文科系やスポーツ系、行事系など様々なイベントを実施することが出来た。

◆ユース交流センター以外でも、居場所の重要性を伝えるべく、不登校居場所「よっといで@武庫西生涯学習プラザ」での取り組みや地域向けのイベントなども積極的に参加した。

## ユースワーク推進事業(ユースワーカー養成研修＆ユースカウンシル)

地域においてユースワークの視点で青少年への支援を行うユースワーカーを養成する実践的な講座を実施した。実施については、全国ユースワーカー協議会をお招きし、6月26日（日）/7月3日（日）の日程で開催した。17名と15名の参加者が受講した。また、園田地区の子育て支援連絡会でも研修を実施した。（7月8日22名）各地域課と連携して全地区でも開催した。（大庄：12月13日9名、武庫地区：1月11日7名、中央地区：1月20日11名、立花地区：2月9日16名、小田地区：2月10日4名、園田地区：2月17日9名）

<感想>
・将来子ども達と関わる仕事がしたいので、今回学んだことを活かせるように頑張ろうと
思います。
・ユースに限らず人とのかかわりについて考えるきっかけになりました。
・運営しているユーススペースにおいて、今回学んだ事をどのように活かせるか具体的
に考えていきたい。

若者の声を市の施策に反映することを目的としたユースカウンシル事業を行い8月に市長・副市長等への発表を行った。様々な課題解決を目的としたプロジェクトも実施している。次期の募集も実施した。（23名参加）セクシャリティ教育等を含めたユースワークの推進にも取り組んだ（議員とのトークイベントの実施）【テーマ例】・ごみ問題について　・校則見直し　・ヤングケアラー支援　・部活メーカー

◆ユースワーカーの養成研修は利用者の意見から2日間の連続開催ではなく、週ごと分けて実施した。一方で各地区での研修会も実施し、ユースワークや若者の居場所について知ってもらう機会を設けた。ユースカウンシル事業も8月に市役所職員向けにプレゼンを行った。今後も引き続き若者が社会に対して声を上げていく活動を増やしていきたい。

## 青少年の自主的なイベント企画

青少年で構成する実行委員会を組織し、ユースセンター全体に関する運営に取り組んだ。（運営メンバー11名）今年度は定期的なイベントの開催を実施した。また京都のユースセンターにも訪問し、運営の様子を学んだ。
また、中高生の「やりたいをやろう」というキャッチコピーのもと、一人ひとりの自己実現に向けた取り組みを実施した。

| プロジェクト | 内容 |
|---|---|
| バレンタインイベント | ユース交流センターの利用者の満足度向上としてバレンタインイベントを実施した。バレンタインにちなんだゲームなどを実施した。（2月14日25名参加） |
| リアルフリーマーケット | 高校生の利用者の発案で地域の人や利用者を巻き込んで、フリーマーケットを実施した。品物の提供のお願いから運営まですべて実施した。（2月18日35名参加） |
| 歌い手ライブ | 高校生の利用者の発案で歌い手の文化をユースの利用者に多く知ってもらいたいと企画した。当日は6人の歌い手が出演した。（3月18日35名参加） |

◆ユース交流センターの運営を担う、ユース実行委員会の活動を行った。（11名参加）今年度は利用者の交流を目的としたイベントの開催を実施した。また京都のユースセンターにも訪問し、運営の様子を学んだ。

◆中高生が「やりたい」と思うものをプロジェクトにし、イベント企画を行った。全部で3つのプロジェクトが生まれ、「やりたいをやろう」というキャッチコピーをもとに、自己実現と交流をテーマに企画を行った。

## 青少年体験型イベント企画

青少年に向けて、多様なテーマの講座や催し等を実施した。

| 講座名 | 開催月 | 開催数 | 参加人数（合計） |
|---|---|---|---|
| ギター講座 | 4月～3月 | 24回 | 104人 |
| 美術入門 | 4月～3月 | 24回 | 114人 |
| プログラミング講座 | 4月～8月 | 10回 | 7人 |

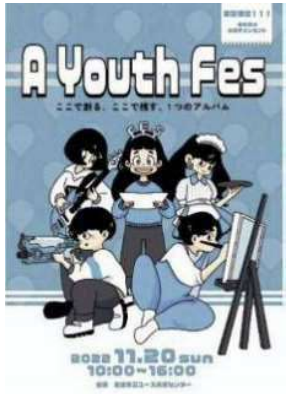
◆利用者の声を聴きながら、3種類の講座を開催した。昨年度から実施しているギター講座や美術入門（イラスト講座）は定着しいてきており、参加者数が増えてきている。

◆次年度は講座のやり方や開催期間などにも考慮し、多種多様な取り組みを開催し、一人ひとりに合わせた体験を深める取り組みを実施していきたい。

## A Youth Fes　ここで創る、ここで残す、１つのアルバム

青少年の交流を目的として、11月20日にプラザ全体で大規模のお祭りを開催した。
内容は中高生が起案し、総勢190名の参加があった。

【内容】
・音楽発表会　　・サバゲ―
・アート展　　・コンセプトカフェ
・スケートボード体験会　など



◆今年度は7月から実行委員会を立ち上げ、メンバーを募集し、内容等を１から一緒に考えて実施した。

◆中高生が主体となって活動をしてくれたが、実行委員会に入るにはハードルが高く、何かやってみたいという層も存在しており、来年度は様々な声を拾い、実現できる体制を考えていきたい。

## サテライト事業

地域の公共施設の貸館などを活用し、ユース交流センターのプログラムに参加できない層に対して、イベントなどを実施した。

| 地区名 | 主なイベント | 開催月 | 実施数 | 参加人数（合計） |
|---|---|---|---|---|
| 武庫地区 | 武庫地域課と連携して中高生がやりたいことを紹介するイベントを行った。（みんなのユースホームルーム） | 8月～3月 | 4回 | 15人 |
| 小田地区 | 小田地域課と連携して居場所運営と様々なイベントを実施した（パン作り/お化け屋敷/フェス運営体験） | 4月～3月 | 12回 | 1,716人 |
| 園田地区 | ポノポノプレイスと連携して双星高校での居場所カフェを実施した。地域課と連携したイベントも実施した。 | 4月～3月 | 19回 | 925人 |
| 立花地区 | 立花地域課と連携して居場所運営とイベントを実施した。（昆虫食を食べよう/哲学カフェ/きもだめし） | 4月～3月 | 26回 | 525人 |
| 中央地区 | 中央地域課と連携して中高生がつくる小学生の居場所運営を行った。 | 4月～3月 | 8回 | 205人 |
| 大庄地区 | 大庄地域課と近隣の中学校の生徒会と連携してイベント企画立案を実施した。（e-sporets/ボクシング体験） | 10月～12月 | 3回 | 34人 |

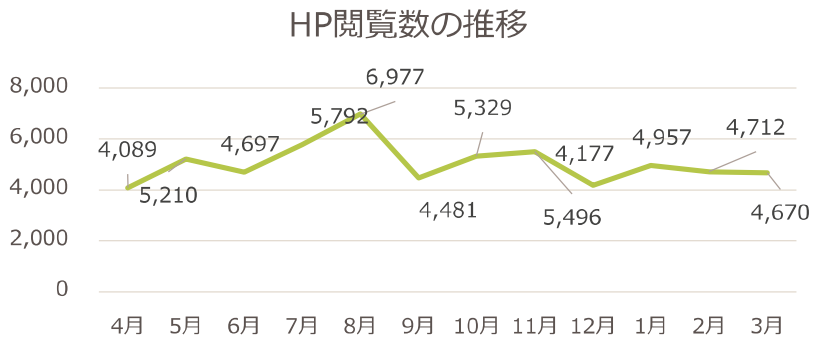
◆今年度は6地区でイベントや居場所の運営を行った。青少年の居場所を身近に創ることを目的に、地域課と一緒に取り組んだ。小田地区や立花地区では、施設内に青少年向けの常設の場所を設置してくれた。今後も地域内でユースワークの視点を広め、地域ごとに研修などを実施していきたい。

◆利用者としては、ユース交流センターに来ていない層が参加しており、後日センターに来てくれることや、センターに来ている利用者がサテライトの居場所に通うなどの機会が増えてきており、身近に居場所があることの効果が出てきている。

## 情報収集・情報発信

利用促進や情報公開としてホームページを開設するだけでなく、中高生世代が多く利用しているSNSを作成し、定期的に情報発信を行った。また、チラシやパンフレットを作成し、市内の公共施設等に配布を行い、利用促進を行った。

| 年度 | Twitter | インスタグラム | Facebook | LINE@ |
|---|---|---|---|---|
| 2019年度 | 274フォロワー | 152フォロワー | 183フォロワー（169いいね） | 227（友達） |
| 2020年度 | 408フォロワー | 284フォロワー | 298フォロワー（253いいね） | 447（友達） |
| 2021年度 | 534フォロワー | 519フォロワー | 473フォロワー（410いいね） | 520（友達） |
| 2022年度 | 650フォロワー | 720フォロワー | 598フォロワー（516いいね） | 624（友達） |




※HPを閲覧する前に見ていたページのURL（リファラ）は、「検索エンジン（Googleやヤフー等）」「尼崎市のHP」「Twitter」「Facebook」「インスタグラム」の順なっており、上記のSNSの広報や尼崎市と連携した広報が実施できていると考える。

◆今年度は利用者の意見もありInstagramに力をいれて広報を実施した。イベント内容や施設情報などを週3～5日程度で発信を行い、登録者数を少しずつ増やしていった。今後も定期的に発信を行いつつ、利用者同士で紹介してもらえるように工夫しながら広報を実施していきたい。

◆また発信内容については、利用している高校生にも意見を求め、新規利用者獲得に向けて取り組んだ。

## 利用者アンケート

2022年12月1日～28日の期間でアンケートを実施した。アンケートについては、以下の利用者に受付にて用紙の配布を行い、協力をお願いした。
・あまぽーと利用者　・アマブラリ図書コーナー利用者　・アマブラリ学習室利用者　・貸し会議室等利用者
合計419名の回答を得た。（昨年度451名）

赤：すぐに改善する内容
青：今後改善を検討したい内容

| 利用者の声 |
| --- |
| マンガを増やして欲しい（僕のヒーローアカデミア） |
| イベントを増やしてほしい。 |
| ワンピースのマンガを追加してほしい。 |
| 分かりやすい案内板があれば嬉しいです |

| 利用者の声 |
| --- |
| テスト期間の時にフリースペース以外に食事をすることができるスペースが欲しいです |
| 勉強で分からない問題があった時、質問できる人がいるといいと思う |
| 飲食スペースが少ない。（机の数）椅子の数が減った。 |
| 個別の飲食スペース、しきりがある飲食スペースを作ってほしい |

◆新型コロナウイルス感染症の規制緩和が少しずつ出てきている中で、飲食スペースの数を増やしてほしいという声が強かった。また、イベントや漫画などの種類を増やしてほしいという声も出てきており、利用者の声を聴きながら改善していきたい。

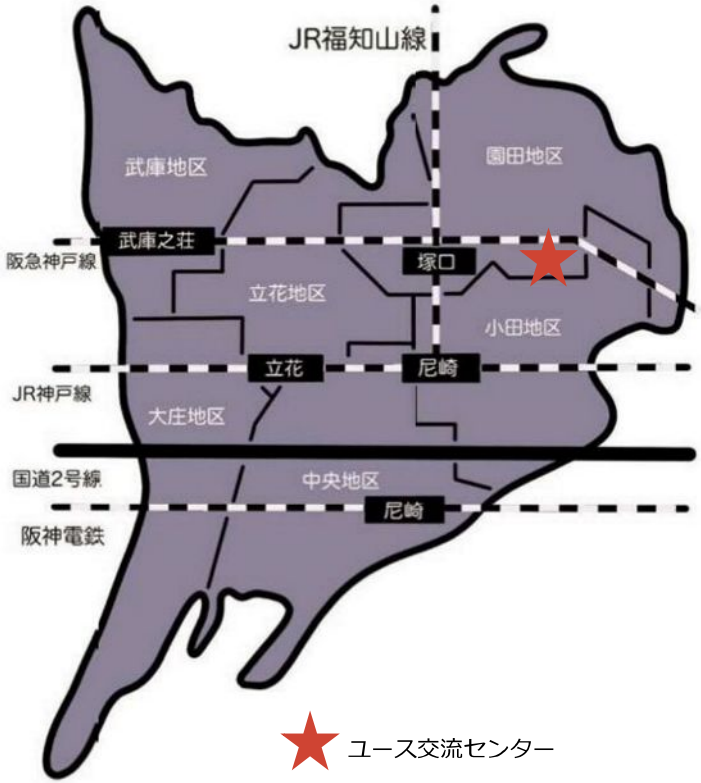
◆依然として、利用者は園田地区の利用者が多く、友人の紹介で来所することが多い。このような状況を踏まえつつ、各地区での取り組みを強化していきたい。

## 達成目標

| | 目標 | 実績<br>※カッコ昨年実績 | 課題や今後の方向性 | 来期の目標 |
|---|---|---|---|---|
| 来館者数 | 32,800人 | 34,075人<br>（27,341人） | センターの認知度も広まってきており、目標達成が出来た。中高生の利用者を増やせるようにチラシ配布など行いたい。 | 40,890人 |
| 青少年の来館者数 | 70.0% | 中高生の利用<br>66.1%<br>（65.6%） | 中高生の利用者も増えてきているが、近隣の小学生の利用も増えており、割合としては昨年度と変化がなかった。 | 70.0% |
| 青少年グループ登録数 | 94団体 | 76団体<br>（79団体） | 音楽スタジオの利用団体も減少しているので、改めて学校チラシ等でPRしていきたい。 | 92団体 |
| 施設利用率 | 54%以上 | 52.43%<br>（45.59%） | 目標には達しなかったが、利用率も向上していている。今後も継続して広報を行い、青少年以外の市民にも広く親しまれる施設を目指したい。 | 62.9% |
| 青少年で構成される実行委員会数 | 11名以上 | 11名<br>（9名） | ユース運営委員会のメンバーが増えてきている。今年は体制面の話が多く動きは鈍かったが、次年度は活動を飛躍していきたい。 | 15名 |
| 市内学校との連携 | 小学校41校<br>中学校17校<br>高校13校<br>との連携 | 高校を中心に<br>利用案内などを実施 | 高校訪問などを実施し、SSWや行政機関含め連携が出来つつある。今後は近隣の中学校などにも積極的にアプローチしていきたい。 | 小学校41校<br>中学校17校<br>高校13校<br>との連携 |

## ユース交流センターサテライト事業

「身近にユースセンターがある生活」を目指し、若者の活動拠点の整備を尼崎市地域課職員および地域団体の方と一緒に実施した。



生涯学習プラザを常設のユースの場所として設置してくれている地域や定期的にイベント開催などは出来てきている。校内居場所カフェや探求放課後カフェとして、学校内に入っていく事例も増えてきている。

# 【令和５年度の運営について】

## ユースワーク研修事業

地域においてユースワークの視点で青少年への支援を行うユースワーカーを養成する実践的な講座を実施した。

## ユースワーカー養成研修＆説明会

ユースワーカー養成研修とは別に各地区でユースワーク説明会（勉強会）のようなものを開催し、地域課職員や社協の職員、地域の市民の方など様々な方に参加いただき、ケーススタディー等を実施している。

## ▶Up to You！（ユースカウンシル事業）

若者の声を社会に届ける。
若者が課題だと思うことや不安に思うことを
市の施策として取り組んでいく。

2022年　7月　モギフェス
2022年　8月　報告会
2022年　9月　報告会スピンオフ
2022年12月　2期生スタート（3年目）
2023年　1月　トークイベントwith市議会議員
2023年　3月　ユースカウンシルフォーラム
2023年　3月　活動見直し合宿
2023年　8月　みんなのサマーセミナー
2023年　8月　活動報告会

全体の運営については、若者が主体となって実施した。
地域でのイベントの参加や企画なども積極的に実施した。
個人プロジェクトについては、センター職員がメンター的な役割
となり、活動を行っている。

## ▶若者がやりたいことをまちで実施

若者が自分たちでやりたいことを実現しており、メディア等に紹介されるケースも増えてきている。令和5年度から若者応援補助金を活用し、活動内容は加速していっている。

また、他の自治体などからも視察が増えてきている。

【視察対応】
- 兵庫県丹波市
- 東京都羽村市
- 広島県呉市
- 静岡県浜松市
- 立憲民主党　など

「なぁ大人聞いてんか」校則に苦しむ中学生、ラップで行政動かした

有料記事

中塚久美子　2023年2月26日 11時54分

コメントプラス

「ブラック校則」とも呼ばれる校則の見直しをめぐり、中学生と学校、行政の議論が始まっている。兵庫県 尼崎市 は昨年12月、校則の見直し指針を策定。ルールに苦しんだ「中学生ラッパー」がはたらきかけた。

「4時まで外出禁止」何のため　高校生が1400校の校則を調べたら

中学生ラッパーのISSHINこと竹島一心さん＝尼崎市若王寺2丁目、市立ユース交流センター

朝日新聞デジタル ＞ 記事

明け方まで母の相談　元ヤングケアラーの学生、こども家庭庁の委員に

中塚久美子　2023年5月11日 12時33分

コメントプラス

子ども政策の司令塔として4月に発足したこども家庭庁で、兵庫県 尼崎市 在住の大学生が同庁の「こども家庭審議会」の委員に就任した。今後5年程度の政策の方向性を定める「こども大綱」づくりに関わる。子どもや若者の意見を届けるための審議が始まった。

4月21日、審議会の初会合が 東京都 内で開かれた。

原田伊織さん

朝日新聞　デジタル版